

(2)調査成果

平成7年度、北側を通る市道（御垣野隈野線）拡幅に伴い、この土地にはじめて発掘調査が入った。第168次調査は、東西約200mに亘ってトレンチ状に調査区が設けられ、複数の遺構面とともに、掘立柱建物・井戸・土坑・溝を主体とした飛鳥時代～平安時代後期にわたる遺跡が一带に広がっていることが判明した。ここは大宰府条坊左郭を広域に調査した初の事例で、奈良時代の朱雀大路東側溝や左郭1坊路など検出し、これらを基にその後、新たな条坊復元案が提示されることとなった。その確からしさは、その後の調査でも証明されている。

平成16年度、県道観世音寺二日市線の新設に伴い第236-1・236-2次調査が行われた（左郭14～17条2～3坊、第236-2次は整備対象地外）。今度は南北方向にトレンチ状の調査区が設けられ、14条路・15条路が検出された。いずれも平安時代後期まで使用された道路だが、このうち15条路については、両側溝から7世紀末および8世紀前半の埋土が検出され、条坊区画が飛鳥時代（政庁I期新段階）に存在したことを示す好例となった。また、14・15条路の間（左郭15条2坊）から客館の一画を占める大型南北掘立柱建物（北棟・236-1SB480）の東半分が検出された。

一方、県道新設決定とほぼ同じ頃、操車場跡地全域にわたる開発計画が地権者である西鉄から示され、平成17年度から発掘調査が行われた。

第251次調査（左郭16～17条3坊）は、西鉄太宰府線の南東側の調査で、奈良時代の16条路、倉庫跡などが検出された（整備対象地外）。

第255次調査（左郭16条2坊）は、今回の追加指定地の南端部の調査で、条坊区画を南北に二分する位置で11世紀後半まで改廃を繰り返した東西溝（条間溝・255SD035）を検出し、最古期の埋土から7世紀末の須恵器・瓦類がまとまって出土した。ここは15条路が北辺を画する区画であり、政庁I期新段階の条坊区画とその内部を二分する区画溝が同じ場所で確認されたことで、当該期に条坊が施工されたことはほぼ確実となった。

第257次調査（左郭14～15条2坊）では、15条路の北側で客館の大型南北掘立柱建物（南棟・257SB300）を検出された。これにより巨大な北棟・南棟が一時的に配置されていることや、その規模・配置が政庁脇殿に匹敵するため大宰府に関わる大型施設との想定も行われた。建物の建造時期は、柱穴出土遺物から8世紀第2四半期頃と想定された。廃絶時期は、南棟は8世紀後半、北棟は9世紀前半まで残る可能性がある。

その後、大型南北掘立柱群に伴う正殿的な東西棟や併行する南北棟を想定し、北西側（第267・277次調査）・北東側（第275次調査）・東側（第285次調査）の調査が行われた。

第267次調査（左郭14条1～2坊）では、北棟（267SB700（=236-1SB480））の西側を検出したほか（検出のみを行った）、左郭1坊路・14条路の交差点が検出された。ここでは正殿的な東西棟は検出されなかった。なお、礎石とみられる巨石が散見され、8世紀末～9世紀初頭の瓦・塼・鬼瓦等が比較的まとまって出土している。大型掘立柱建物に代わって、瓦葺礎石建物が建っていた可能性も推測される。

第275次調査（左郭14条2～3坊）では、左郭2坊路・14条路の交差点を検出し、交差点の南西では5×3間、4×3間の東西棟群を確認した。管理棟のような建物群と推察される。

第277次調査（左郭14条1・2坊）では、左郭1坊路を検出し、周辺から小規模建物や井戸を検出された。注目されるのは、奈良時代の井戸が集中していること、また佐波理・奈良三彩など高級食器の出土がこの付近に特に集中していることで、客館の厨と推定された。また奈良時代の井戸の一部の枠材には、扉・机・箱・木簡が転用されていた。中には「仕丁」と記した木簡もあり、ここが大宰府に関わる施設とする大きな根拠となった。なおここでも正殿的な東西棟は検出されず、この施設には正殿的な建物はなかったことが判明した。

第285次調査（左郭14条2・3坊）では、左郭3坊が完全に削平されていたが、それはここまで伸びていた東からの丘陵がカットされたためと判明した。これが客館の東側範囲とみられる。また、調査区南側では左郭2坊路の南半を確認したが、南端路面上には客館時代の建物が進出していた。左郭14条の左郭2条路は、北側の第275次調査でも確認されたように予想より西寄りに位置しており、南延長上では15条路との交差点も検出されていない（第236-1次調査）。おそらく当初からここが道路だったのではなく、客館廃絶後つまり機能停止後に丘陵裾を避けて設置されたと想定される。



客館跡の調査区空撮接合写真
（平成7～24年、上が北）



北棟東側
236-1次調査 南から撮影



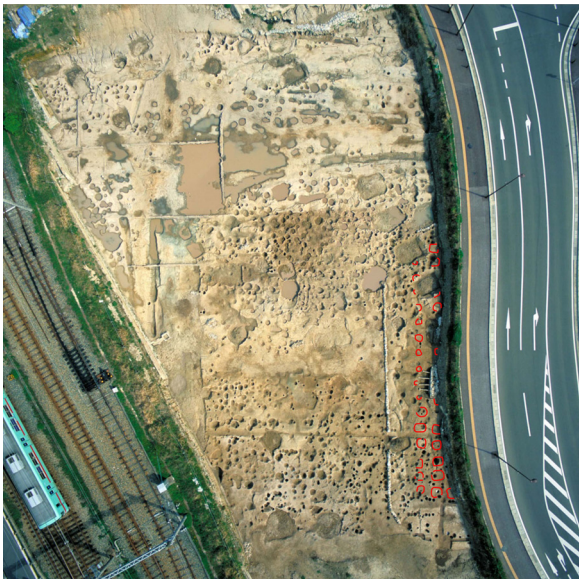
南棟
257次調査 北から撮影



大宰府条坊跡第 236 次調査



大宰府条坊跡第 255 次調査



大宰府条坊跡第 267 次調査



275 次調査 東から撮影



277 次調査1区 南から撮影



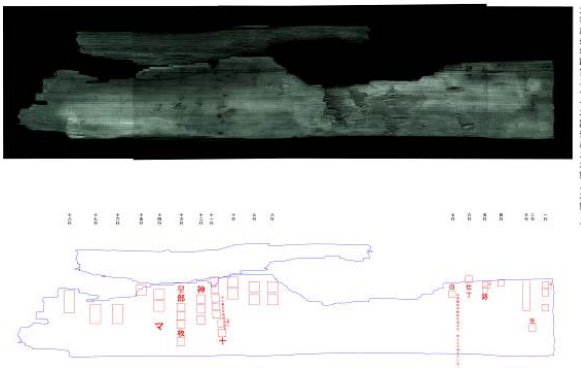
285 次調査 左が北



「仕丁」「役」木簡が井戸枠に転用された
奈良時代の井戸
277次2区 北から撮影



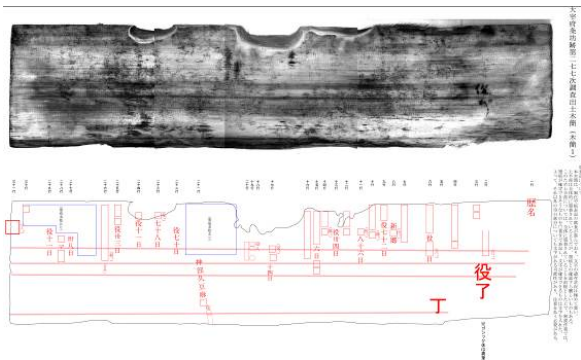
高級食器_唐代の茶碗・茶托(越州窯系青磁)



「仕丁」を記す木簡_8世紀



高級食器_奈良三彩・漆器・佐波理



「役」に関する歴名木簡_8世紀



高級食器・容器_上段:青銅製品、下段:銅製品



畿内から持ち込まれた土器_8世紀



平安時代の権帥・大貳が着けた白玉帯